（様式３号）

学 位 論 文 の 要 旨

氏名　　山本　隆裕

〔題名〕

山口県におけるheat illness患者の入院予測因子

〔要旨〕

本研究の目的は救急室における重症化リスクのある熱中症（heat illness）患者の入院予測因子を明らかにすることである。山口県内の救急外来をもつ34病院に対して、アンケート用紙を用いた後方視的な調査を行った。2007年7月1日から8月31日の2か月間に山口県内の救急指定病院を受診しheat illnessと診断された患者について、年齢、性別、救急車使用の有無、バイタルサイン、血液検査結果、入院期間、退院時転帰について調べた。それらのデータからheat illness患者の入院予測因子を分析した。128名のデータが集まり、救急外来で死亡した1名を除いた127名の患者データを分析した。入院患者は49名（39%）であり、そのうち29人（59%）が入院翌日、33人（67%）が3日以内に退院した。単変量解析では、高齢、意識障害（Glasgow coma scaleの低下）、体温上昇、血清C-reactive protein値の上昇、血中尿素窒素値の上昇が入院の危険因子として有意差を認めた。救急外来で入手できるデータを用いたロジスティック回帰分析では、65歳以上、意識障害（Glasgow coma scaleの低下）、体温の上昇、クレアチニン値の上昇が独立した入院予測因子であった。即ち、この結果は高体温、意識障害、腎障害を伴った高齢者においてheat illnessによる入院のリスクが増加することを示唆している。

（様式９号）

学位論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 第 1439 号	氏　名	山　本　　隆　裕
論文審査担当者	主査教授	田邊剛	
	副査教授	石田博	
	副査教授	鶴田良介	

学位論文題目名（題目名が英文の場合，行を変えて和訳を括弧書きで記載する。）

山口県における heat illness 患者の入院予測因子

学位論文の関連論文題目名（題目名が英文の場合，行を変えて和訳を括弧書きで記載する。）

Predictive Factors for Hospitalization of Patients with Heat Illness in Yamaguchi, Japan.

（山口県におけるheat illness患者の入院予測因子）

掲載雑誌名

International Journal of Environmental Research and Public Health　第12巻第9号　11770-11780頁　（平成27年9月）

（論文審査の要旨）

本研究の目的は救急室における重症化リスクのある熱中症（heat illness）患者の入院予測因子を明らかにすることである。山口県内の救急外来をもつ34病院に対して、アンケート用紙を用いた後方視的な調査を行った。2007年7月1日から8月31日の2か月間に山口県内の救急指定病院を受診し heat illness と診断された患者について、年齢、性別、救急車使用の有無、バイタルサイン、血液検査結果、入院期間、退院時転帰について調べた。それらのデータから heat illness 患者の入院予測因子を分析した。128名のデータが集まり、救急外来で死亡した1名を除いた127名の患者データを分析した。入院患者は49名（39%）であり、そのうち29人（59%）が入院翌日、33人（67%）が3日以内に退院した。単変量解析では、高齢、意識障害（Glasgow coma scale の低下）、体温上昇、血清C-reactive protein 値の上昇、血中尿素窒素値の上昇が入院の危険因子として有意差を認めた。救急外来で入手できるデータを用いたロジスティック回帰分析では、65歳以上、意識障害（Glasgow coma scale の低下）、体温の上昇、クレアチニン値の上昇が独立した入院予測因子であった。即ち、この結果は高体温、意識障害、腎障害を伴った高齢者において heat illness による入院のリスクが増加することを示唆している。

本論文は軽症から中等症の heat illness に焦点を当て、救急外来において入院を予測する因子を調査した初めての論文であり、学位論文として価値あるものと認めた。

備考　審査の要旨は８００字以内とすること。